



YOU ARE
THE KEY

あなたが
鍵です



会長 佐藤順治 幹事 秋野 忠 クラブ奉仕 吉野 勲 職業奉仕 板垣広志 社会奉仕 小池繁治 国際奉仕 高橋良士 青少年奉仕 丹下誠四郎

出席報告：会員 77 名 出席 55 名 出席率 78.57 % 前回出席率 81.43 % 修正出席 64 名 確定出席率 91.43 %

会員スピーチ

創立27周年記念会員スピーチ “物故会長を偲んで”

初代・二代目会長小花盛雄氏を偲んで

チャーターメンバー 津 田 晋 介 君

本来ならば当時の幹事であった安藤定助君がスピーチするべきですが、退会されましたので、替って私からお話致します。

鶴岡R.Cの設立に関しては、山形R.Cの安斎徹先生が何回も鶴岡に足を運ばれまして、大変ご苦勞をおかけ致しました。実際上は初代会長の小花先生と幹事の安藤定助君と安斎先生と3人のご苦勞によるところが大変大きいと考えられます。

小花先生と私はあまり接触する機会が少なかったのですが、当時の会場がひさごやで開催し、月の初めの例会にはお酒も出たのであります。たまたまその席で、大変うまそうに上手にお酒を飲んでいるようでしたので先生に、お酒は好きですかと尋ねますと、先生は、「世の中でこんなうまいものはないし、神様がよく作ってくれたもんだと感謝している」と申されました。大変お酒は好きだったようです。

それから、先生は短歌にも大変造詣が深く、斎藤茂吉先生の一番弟子と言われた結城哀草果先生が月に1度位の割合で自宅に来られまして、同好の志の

方々が集まって、短歌の研鑽を積んでおられたようでしたが、或る時小花先生が私に向って、斎藤茂吉の作った中で一番いい歌を知っているかと尋ねられまして、当時の私は知らなかったのですが、山形県が生んだ日本でも最大の歌人の作品を知らないではだめだとしかられた思い出があります。その歌は、「最上川 しらさか波の立つまでに ふぶく夕べとなりけるかも」の一首でありました。茂吉自身としても、芭蕉の「さみだれを集めて早し最上川」に匹敵する作品がこの歌であると自負しておられたし、又、自信も持っておられたとの事でございます。

その他にも先生は、オーケストラ等にも関係しておりまして、きわめて多才な方でありました。

今から約10年前に膀胱ガンにて故人となられましたが、その同じ年に相前後して、同じクラブの会員の五十嵐伊一郎さんが忘くなりましたが、彼も小花先生と同じ65才でありました。

小花先生は膀胱ガンという病気のため、非常に衰弱されて、見舞い等も拒否されたそうですが、対象的に五十嵐さんの場合は、自宅で夕食後テレビを見

あなたが鍵です — 会員増強にご協力を!

庄内空港の建設を推進しましょう

ておって、時間なのでそろそろと思い奥様が声をかけたら、冷たくなっていたとの事でした。人間の最後は死を覚悟しての不治の病で死を迎えるか、死というものを考える暇もなく死を迎えるか、どちらが良いものかと真剣に考えた事がありました。

小花先生は鶴岡にロータリーを作ったと同時に、庄内にロータリーの灯を灯された方だと考えます。

人間は誰しも、意識するとしなやかにかかわらず、使命をもって生きていたと考えられますが、小花先生は多方面にわたって活躍されました。65年間の生涯は短かったかも知れませんが、十分に使命を果された人生ではなかったかと考えられます。

今は亡き小花先生を、ロータリーの例会に出席しながら、時々面影を偲んでおります。

第3代目会長三浦岩治郎氏を偲んで

3代目幹事 小池繁治君

昭和36年から37年にかけて会長を務められました三浦岩治郎さんは測量事務所を経営されておられて、石黒慶之助さんの叔父に当方でありまして、非常に洒脱な方でありました。

会長就任の挨拶の時に言われた事ですが、小花先生が二代にわたって非常にしっかりした路線を敷いていただいたので、自分の代には、そのレールに乗って、せめてそのレールからはずれないようにしながら、コーヒーの一杯も飲みながら、リラックスしてやっていきたいと思うと述べられました。

非常に人柄があつたかい人でありましたが、大雪の年に屋根の雪おろしをやった時の心臓病が原因とかで、あまり長く病床につく事もなくお亡くなりになったと思われました。弔辞を読んだ中でも申した事でしたが、春の陽が当たっている日向の壁よりかか

った時にぬくもりを感じずの時のような人であったと表現させていただいた事があります。

それから、私の会長時代には金井勝助さんに非常にお世話になった事がありました。それはロータリーの事で失敗した時にいろいろとかけずり廻っておられて、思い余って金井さんにご相談を申し上げたところ、金井さんは熱すぎる風呂に入った事があるかと申されまして、その時のようにだまって時のたつのを待ちながら物事を処するの必要な事だと教えていただいた事を思い出します。

三浦岩治郎さんからは、あつたかい人柄を教えてください、金井勝助さんからは物事に処する心がまえを、当時非常に未熟であった私をご指導いただいた事を今でも大変感謝致しております。

第4代目会長佐藤伊和治氏を偲んで

4代目幹事 三井賢二君

私は入会して半年位で突然幹事の指名を受けました。ロータリーの事など全然知らない状態で引き受けさせられたのであります。

佐藤伊和治会長さんにとっては非常に心細い幹事であつたろうと考えられます。それでも毎日のようにきまった時間に同じ口調で電話があり、ちょっと相談があるんだということで五日町の事務所の2階

に通つたものであります。

何もわからないままに手続要覧を2~3度読みまして、何とかアウトラインだけをつかんだのであります。

会長さんも、会長必携を非常に良く勉強しておられて、各ページが赤ペンでまっ赤になつておつたと記憶しております。何もわからない私に親切て

いねいに教えていただいた事を心から感謝致しております。非常にまじめな方であったと思います。

或る時、仙台に於て地区協議会が開催されました時に、当時は半分位の方々が奥様同伴でありましたので、大変良い雰囲気でもあった故ですが、佐藤会長と三浦岩次郎さんと夫妻が帰りに温泉旅館に泊られた時の話でございます。二人でゆっくりと温泉に入ってくつろいだのであります。三浦さんが一足先に風呂から上がったので、間もなく佐藤会長も風呂から上りパンツをはいたところが、どうもしっくりしないのでよく見ると、どうも三浦さんのパンツらしいので三浦さんに聞いてみると、まちがいであったと、二人で大笑いしたと、後日に我々におもしろおかしく楽しそうに話されていた事を思い出します。

それから佐藤会長は、当時はやっていた“こんにちわ赤ちゃん”の歌をしぶい声でうたうのが得意でありました。或る親睦の会合で、佐藤会長が少し遅れてきましたので、私が遅れた人は皆さんが歌う事になっておりますといいますが、会長は、自分のロータリーの定款にはそんな事は書いていないと申されましたので、私の持っているロータリーの定款には、まちがいでなく書いてありますと頑張りまして、歌ってもらった事もありました。

それからは毎々その歌を聞かせてもらったのですが、奥様からはあまり歌わせないで下さいと申し入れもありましたが、一杯飲んで雰囲気が良くなると特製の歌を聞かせていただいたのが、なつかしい思い出であります。

会長報告

佐藤 順治 君

1. 6月9日は当クラブの創立27周年記念日であります。その記念として、ささやかではありますが、お祝いの餅を準備致しました。お持ち帰り願います。

2. 松田貞夫さん退会

松田さんは会社の都合上、東京本社に転勤することになり、今月限りで退会することになりました。松田さんは、昭和56年9月22日入会され、今日に到る迄4年8ヶ月の間クラブ運営にあたり、多大の貢献をして頂きましたことは、皆さんご承知の通りであります。誠に残念ですが止むを得ません。

尚、退会のご挨拶は最終例会日の6月24日にお願いくることになっておりますが、送別会などの都合もあるかと思い、本日発表させて頂きました。

幹事報告

秋野 忠君

- ロータリー適用相場変更のお知らせ
ロータリーレート6月1日より(現行180円)
1\$175円に変更。
- ロータリー財団への寄付(ポール・ハリス・フェ

ロー関係も含む)も同じく1\$当り175円が適用されます。

新会員紹介

齋藤 庄司 君

中 沢 進 君(東京海上火災保険鶴岡支店長)

生れ年 昭和18年

出身地 群馬県

家族 奥様とお嬢様一人

趣味 スポーツ、バレーボール

新会員挨拶

中 沢 進 君



ご紹介いただきました中沢でございます。前任地は群馬県の前橋でございます。この地域の皆様方や、創立27年の長い伝統を誇る当クラブを通して、いろいろとご指導をいただきたくお願い致します。

前任者中田同様によりしくお願い申し上げます。

ユネスコよりの報告

三井 徹君

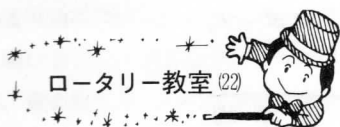
国際平和年を記念して公式ポスターが作られました。今回始めて日本から、東山魁夷氏の「二つの月」が選ばれました。原画は東山画伯の指定により画伯の北欧シリーズの中から「二つの月」が選ばれた。英語版、仏語版、語版の三種類で、合計5千部出版。近くユネスコ本部から各国ユネスコ国内委員会及びユネスコNGO団体を通じて配布される。

スマイル

津田晋介君 三井先生の病院で孫が誕生。
三井 徹君 津田先生のお孫さんが当院で誕生。
嶺岸光吉君 津田先生のお孫さん誕生を媒酌人としてめでたし。
吉野 勲君 創立27周年記念品に当社の製品をおつかいください。

ビジター

鶴岡西R.C 中村 紘君、児玉光弥君



ロータリー教室 (22)

ロータリー小史 1

「寒い冬枯れのシカゴで、ロータリーを創立したとき、今日のように隆盛な世界的運動に発展すると考えましたか」とポール・ハリスは生前、しばしばこのような質問をうけたといいます。

これに対する最高の答えは、1947年1月27日ポールが亡くなる前にかきあげた、ロータリー創立記念メッセージのなかにみられます。そのメッセージのなかで、彼はつぎのように書いています。

「1905年には、ロータリーがこのような世界的運

動になろうとは予想していなかった。早春のころ、あまり大きくなりそうにない若木をうえるとき、人はいつの日かそれが、亭亭たる大木に育つであろうと確信できるだろうか。それは雨と太陽——神の摂理の微笑にまたなければならぬのではないか。若葉がはじめてもえでるのを見るとき、そのときこそ人は大いなる木陰を夢みることができるのである」

ロータリー運動は、1905年2月23日の晩、乱雑に広がったシカゴの街で孤独と疎外感に悩む青年弁護士ポール・ハリスが、かねてあためていたアイデアについて話しあうため、3人の友人と会合したときうまれました。その3人とは、石炭商のシルベスター・シール、鋳山技師のガスターバス・E・ローア、そして、仕立業のハイラム・ショーレーでした。ポール・ハリスとこの3人は、シカゴ市内のユニティ・ビルにあるローアの事務所で落ちあいました。このユニティ・ビルはシカゴの北ディアボン街127にいまなおあります

この会合でポール・ハリスは「実業人が友愛の気持をもって親しみあい、仕事のうえでの知りあいの輪を広げていくために定期的に集まる会をつくる」というかねてからのアイデアを提案しました。これについて、4人がいろいろと話しあった結果、一つの職業から1人だけを会員としてえらんで、男性のクラブをつくることになったのです。このクラブは週に1回、会員の店あるいは事業所を、輪番に会場としてひらくことに決めました。会場を輪番につかうことにしたのは、会員がおたがいの仕事について、よく知ることができるようにするためでした。この輪番にちなんで、クラブの名称を「ロータリー」としたのです。

(次回に続く)